

## 町たんけんは宝さがし —三年社会科への接続を意識した二年生活科—

4年 金野崇史

### ○はじめに

皆さんは自分が住んでいる地域でおすすめのスポットはありますか？公園、おいしい飲食店、行きつけのカフェなど色々あると思います。人からおすすめのスポットを聞き、そこを訪れることで、新たな発見やそこにいる人たちとの交流を深めることができます。

今回、みなさんに紹介する実践は増田敦子さんの「町たんけんはたからさがし」という、三年生社会科への接続を意識した二年の生活科の実践です。著者は本実践で二年生の町たんけんを通して三年の地域に関する学習につなげるための土台を築こうとしていました。

### ○実践内容

まず、子どもたちに探検で行きたい場所を「遊び、おいしい、楽しい、便利、はてな」などの視点で「おすすめスポット」カードに書かせて、町たんけんのコースを設定していました。

次に、たんけんに行きます。たんけんは二回にわたって行われます。

まずは「ぞろぞろたんけん」で子どもたちの家、「おすすめスポット」カードで紹介した場所、教師が見せたい場所のそれぞれが含まれたコースを設定し、クラス全員で歩きます。歩く中でそれぞれの場所について子どもたちや教師自身が紹介をし、発見したことを休憩時間に「はっけんメモ」にまとめさせていました。そして、たんけんで見つけたことを家族に話し、絵と文でまとめさせる宿題を出し、翌日の授業で発表し合います。こうすることで、町たんけんのなかで発見したものを印象付けさせようとしていました。

そして、二回目の町たんけんとして「スポットたんけん」を行います。これは、働く人の様子を見ることを意識した町たんけんです。まず、町たんけんのエリアとして店や工場が多いところから、「もっと詳しく見たい所」を子どもたちに選ばせます。そして、少人数のグループでそれぞれ見たい場所に訪問するというものでした。

本文で著者は三年社会科の土台として、具体的なものを見て事実認識を積み上げる二年生の町たんけんは大きな意味を持つと述べていました。

### ○感想

今回の実践を読んで学んだことは簡潔に言うと次の二つです。

一つ目は、生活科は社会科へつなげるための土台として重要であることです。生活科で具体的なものを見ることを通し、社会科の内容の深い理解につながるということが分かりました。生活科の指導プランを開発するときには今回の実践のような意識を持って取り組みたいです。

二つ目は、地域に関する学習を行う際は、その地域をよく知ること、そして地域との連携が大切であることです。地域を教材とするためにはその地域の歴史、風土、施設等について知ること、そして地域の人々とのつながりを大切にすることの重要性を確認することができました。

